

高齢者事業団

この道ひと筋に

機械設計者として情熱を燃やす小松さん

現在、市内の65歳以上の人口は1万5,000人。市全体で占める割合は7%。さらに20年後には約12%の3万人になると予想されます。

いやおうなしに高齢化社会の進む中で、市は昨年の10月、県下初の「高齢者事業団」をスタートさせました。

これは、自分の経験と能力に応じた労働をすることによって、「健康」と「生きがい」を増進させ、さらに一定の収入を得るといふものです。

今回は、この事業団の会員で「自分の経験を社会のために生かしたい」という鈴川3丁目の小松達郎さん(74歳)を紹介しながら、お年寄の生きがいについて考えてみました。



【今日も機械設計に励む小松さん】

70歳から勉強を

小松さんは、明治40年8月1日生まれ。長女の慶子さん(44歳)とお孫さんの明子さん(19歳)、有子さん(14歳)の4人で暮らしています。

小松さんは、昭和10年に川崎に本社がある大手電気会社へ勤務。昭和20年に富士工場へ転勤し、昭和38年の定年退職まで、機械設計者として技術畑ひと筋に歩んできました。

定年退職後は、大仁にある関連企業へ、機械設計者として昭和46年まで勤めました。

その間、昭和45年には人生の最大

の不幸ともいふべき、奥さんと長男、それに長女のご主人の、3人を病気で亡くされてしまいました。

仕事も手につかない毎日でしたが、自分のことはもとより、長女の家族のことも考えなければならず、よしっ、これからは本気になって仕事を始めよう——と…。

この時、小松さんはすでに67歳。

昭和47年に自宅へ設計事務所を構え、自分で設計の仕事を始めました。

最初のうちは、なかなか仕事もありませんでしたが、知人などの紹介により仕事も増え、忙しい毎日となりました。しかし、70歳を過ぎると

仕事も減る一方。

そこで、小松さんは、70歳を境に設計の勉強をもう一度やり直そうと思ひ、基礎から学び始めました。

この時、「小人^{しょうじん} 閑居^{かんきょ}して不善^{ふぜん}をなす」という諺を常に自分にいいきかせました。

思いがけず仕事が…

それから3年、73歳という年齢から「もう自分を使ってくれる所はないだろう」と思ひながらも、設計の勉強を毎日続ける小松さん。

そして、去年の9月に「高齢者事



市内最高齢者の加藤さん

70歳以上は9,445人

各地区で敬老会が開かれます

今年も敬老会が、9月9日の神戸、吉永第2地区を皮切りに15日まで、各地区で開かれます。

対象者は、明治44年9月15日以前に生まれた70歳以上の人で、市内には男3,891人、女5,554人、合計9,445人います。

市からは、80歳以上の人に祝金、

88歳の人に記念品と祝金、90歳代の人にシーツ、金婚式を迎えられるご夫妻に、きゆうすが贈られます。また、289人の寝たきり老人に、市長の慰問文を添えた慰問品が贈られます。市内の最高齢者は、大淵4632-1富士楽寿園内の加藤源次郎さん(99歳)です。

業団」が出来たことを知り、10月の発足と同時に会員となりました。

会員になったときは、「自分は高齢だけれど、設計の仕事を少しでも生かせる場があったら」という気持で申込みを――。

会員になってから半年後、半ばあきらめかけていた小松さんに、事業団から、「仕事の話があるから来るように」との連絡。

仕事の発注先は、市内の鉄工所でした。

小松さんは、「世の中には、随分きとくな人がいるものだ」と思ったそうです。

仕事の内容は、まさに自分が今まで勉強してきたものとピッタリ。

さっそく返事をして、次の日から仕事に出かけました。

仕事を始めてから5ヵ月。毎日、機械設計に追われている小松さんは、「本当にいい仕事をいただいたと感謝しています。世の中には、私よりもっと立派な技術者がいるのに…」と話しています。

社会に役立てれば

一方、仕事の発注先である鉄工所の事業主は、「設計と溶接の経験者が必要――ということで、今年4月に事業団へ申込みました。小松さんは、歳はとっていても若い人とぜんぜん変わらない仕事をします。」さらに、「大企業などでは、55歳から60歳位で定年退職になってしまうが、技術を持っている人は、もっと活躍

してほしい。市内には、優秀な技術者が相当いるのでは…」とも話しています。

最近の小松さんを、長女の慶子さんは次のように見えています。「主人がいないので、子どもの父親代わりにもなっていますが、仕事を始めてからは特に、張切っています。いい仕事をいただいたと感謝しています」

お年寄の生きがいについて小松さんは、「歳をとってから一番困ることは、社会と絶縁してしまうことです。

週に1回でも2回でも仕事をする必要がある」最後に、「今までの体験を生かして社会に役立てれば幸せです…」と話していました。



〔現場での打合せも…〕

「健康」と「生きがい」そして「収入」を 好評の高齢者事業団

昨年の10月、260人余の会員でスタートした高齢者事業団。

健康で働く意欲のある高齢者が、自ら働く組織を作り、再就職の道をとらず、民間企業や一般家庭から仕事を請け、経験と能力に応じて仕事をする――これが事業団です。

すなわち、仕事をすることによって、「健康」と「生きがい」そして「収入」を得ることが大きなねらいです。

会員数は現在、370人で発足時よりも大幅に増えています。

仕事の量も56年度は、4月から7月までに受注件数が337件、就労人員延5,200人、契約金額が1,800万円にもなっています。

仕事の内容は、清掃・除草・植木の手入れ・ペンキ塗り・会社や商店の片づけ・家事手伝いなどです。

会員になるには、おおむね60歳以上の人ならどなたでもなれます。

また、仕事の発注は高齢に向けた仕事ならなんでも受けます。申込み先は、高齢者事業団、☎ 53-1150へ

(1,500万円が限度)

◇貸付利率 年7.98%

◇返済方法 元利均等毎月払い

※詳しくは、公庫業務取扱い金融機関へ

—移動点字図書館の日程変更—

8月25日発行の〔広報ふじ〕お知らせコーナーで、移動点字図書館の日程を9月21日(月)とお知らせしましたが、9月20日(日)に変更となりました。

県民手帳の予約受付中

県民手帳は、最新の豊富な統計資料や四季の風物、行事の紹介など日常生活に役立つ手帳です。

- ・申込み締切は10月9日(金)まで
- ・大型判(9cm×14.5cm) 350円
- ・小型判(7.3cm×12cm) 300円
- ・申込み先

市広報広聴課統計係 内線 527
※発行は11月です。(現金と引換)

財形住宅融資の借入受付

住宅金融公庫は、財形貯蓄をしている勤労者(3年以上行い、その残額が50万円以上ある人)を対象に、財形住宅融資の借入申込みの受付を行っています。

この融資は、公庫の一般個人住宅融資などとあわせて利用できます。

◇受付期間 昭和57年2月27日まで

◇融資額 財形貯蓄残高の3倍